

筑豊小児科医会会報

Vol.217 2025.2



Contents

- ◇ 今月のトピックス (小児科 診療部長 田中祥一朗)
- ◇ 飯塚病院 月間診療のまとめ《2024年11月》
- ◇ 研修医のご紹介
- ◇ 小児科関連勉強会のご案内
- ◇ AI-CAP 通信
- ◇ Pediatrics note (小児科 診療部長 大矢崇志)

発行：飯塚病院小児センター（飯塚市芳雄町 3-83）
（代表）TEL：0948-22-3800

今月のトピックス（小児科 診療部長 田中祥一朗）

「まちの保健室」から見た子ども達の健康課題

福岡市・天神にある警固公園で、教員や医師、心理士、社会福祉士など多職種による「まちの保健室」を月1回開設し、悩みを気軽に相談できる居場所づくりを目指しています。警固公園に限らず、最近では未成年の飲酒や喫煙のほか、不登校や市販薬のオーバードーズも増加しており、その背景には複雑・複合的な問題を抱える子ども・若者が多いという現状があります。



一方、国に目を向けますと、重層的支援体制整備事業として、「誰一人取り残さない地域共生社会」に向けて、行政・医療・福祉・民間団体などが連携し、包括的な支援を行うことを目指しています。地域全体で連携し、対策を進めることが不可欠であります。その第一歩は「相談や悩みを受け容れる」ことかもしれません。これまでの活動を通じて、オーバードーズや自傷は、怒りや不安、絶望感、罪悪感といったつらい感情の緩和を意図して行われ、そうした行為の背後には、何かしら「見えない傷（＝心の傷）」があることを理解しました。子どもや若者の視点に立ち、つらい気持ちの背景にある現実的な困りごとを明らかにし、困りごとや心のつまずきを少しでも減らす方策を地域全体で考えていくことが大切です。

最後になりましたが、アウトリーチ活動や本稿執筆の貴重な機会を頂き、この場をお借りしまして、関係各位に御礼申し上げます。

飯塚病院 月間診療のまとめ 《2024年11月》

- 入院患者数 134人 ●外来患者数 1,021人 ●救命救急センター受診者数 80人
- 新生児センター入院患者数 8人 ●分娩件数 25件 ●手術件数 6件
- 主要疾患数（退院患者数：113人）

肺炎・気管支炎	41	痙攣及びてんかん	12	喘息	4
急性胃腸炎	4	急性上気道感染症	3	低出生体重児	3
高ビリルビン血症及び黄疸	2	新生児呼吸障害・心血管障害	1	その他	43

●紹介件数（五十音順）

小児科：198件	
平野医院	21
弥永内科小児科医院	16
穎田病院	12
飯塚市立病院	11
栗原小児科内科クリニック	
嘉麻赤十字病院	10
宮嶋医院	

小児外科：9件	
有松病院	1
いづかこども診療所	
穎田病院	
栗原小児科内科クリニック	
くわの内科・小児科医院	
社会保険田川病院	
そらレディースクリニック	
他2件	

研修医のご紹介

● 山口大学医学部附属病院 総合診療プログラム

専攻医 3 年目 やましたたかひろ 山下 敬大

山口大学総合診療プログラム専攻医 3 年目の山下敬大と申します。12 月中旬から 3 ヶ月間小児科で研修させていただいております。

私の地元山口県萩市では小児科医の不足が著しく、今後総合診療医も小児の診療に関わってくる必要があるとされてきております。この度の研修を通じて小児分野の Common Disease をはじめ、乳幼児健診やワクチン接種などについても知識と経験を身に付けていきたいと考えております。

また、私自身 4 歳のときに総合病院の小児科に入院していたことがあり、その際に心細かったという記憶があります。患児や付き添いのご家族を安心させることのできるような診療を心掛けていく所存です。

3 ヶ月という短い間ではございますが、ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



● 総合診療科 専攻医 1 年目 くわのかつひさ 桑野 克久

飯塚・穎田総合診療専門研修プログラム専攻医 1 年目の桑野克久と申します。12 月中旬から 3 ヶ月間飯塚病院小児科で研修させていただきます。

私は初期研修終了後 6 年間内科医(主に腎臓内科医)として成人診療に従事してきました。将来クリニックで家庭医として、小児から成人まで幅広く対応出来る医師を目指して、現在日々研鑽を積んでいます。また筑豊の患者さんのために、少しでもお役に立てればという思いで日々診療に当たっております。

至らぬ点多々あるかと存じますが、ご指導、ご鞭撻の程何卒宜しく願いいたします。



● 初期研修医 1 年目 おおば ゆみこ 大庭 優実子

初期研修医 1 年目の大庭優実子と申します。1 月から小児科にて研修を行わせていただきます。

小児科という分野は成人の疾患と似ているところや異なるところもあり、知識不足や経験不足から戸惑うとは思いますが、飯塚病院小児科の先生方、病棟スタッフの皆様にご指導いただきながら、少しでも子どもたちだけではなく、まわりのご家族の不安にも寄り添える医師になれるよう、勤めて参ります。

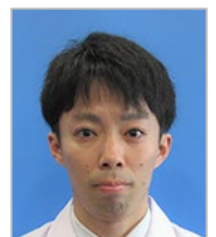
ご迷惑をおかけする部分も多いかと存じますが、少しずつでも成長していけるように頑張っていきますので、何卒よろしくお願いいたします。



● 初期研修医 1 年目 みつみぞりょうと 三溝 稜人

はじめまして。1 月より小児科に配属されました初期研修医 1 年目の三溝稜人と申します。子供たちやご家族に、悩み事を気軽に相談して頂けるような存在となれるよう心がけて参ります。至らぬ点もあるかと存じますが、最適な医療を提供できるよう、皆様にご指導頂きながら精一杯頑張ります。

どうぞよろしくお願いいたします。



小児科関連勉強会のご案内

■ 第 364 回 筑豊小児科医会勉強会

- 日 時：2025 年 2 月 6 日（木）19:00～20:00
- 形 式：ハイブリッド開催（Zoom によるオンライン配信）
- 会 場：飯塚病院 北棟 4 階 多目的ホール

起立性調節障害と漢方

飯塚病院 東洋医学センター 漢方診療科 医長 川野綾子

■ 第 365 回 筑豊小児科医会勉強会

- 日 程：2025 年 3 月 13 日（木）
- 時 間：総 会 18:30～
講演会 19:00～20:00
- 会 場：飯塚病院 北棟 4 階 多目的ホール

【講演 1】 19:00～19:30

飯塚病院小児科腎外来の『これまで』と『これから』

飯塚病院 小児科 医長 荒木 潤一郎

【講演 2】 19:30～20:00

人生 100 年時代を生き抜く～子どもたちの健康と未来を支えるために～

飯塚病院 小児科 診療部長 田中 祥一郎

AI-CAP 通信

通告か通報か悩ましい

虐待防止委員を任せていただいてから8ヶ月が経ち、虐待対応において（児童相談所に加えて）警察への通報を悩む事例・警察へ通報を行う事例がありました。

特に休日・夜間の対応においては、児童相談所・警察と比較した場合、警察がとりあえず現場に急行していただけることに比較すると、児童相談所は連絡してから職員が病院に来訪されるまでの時間、児童相談所の職員が虐待の現場を確認するまでの時間、2点の時間が有意に児童相談所の方が長くかかり、虐待発生から外傷治療までの限られた入院期間の中で、虐待が疑われる事案の状況評価が間に合わない感覚があります。

幸いなことに、現状は自宅帰宅後すぐに別の虐待を受けた症例はなく、現状の児童相談所の方々の対応に瑕疵がある状況にありませんが、多くのケースで自宅の環境確認が退院間際となり、十分な安心感をもって自宅に帰せていないことが気になるところです。

また、虐待事例の多くが保護者・発見者の受傷状況説明に疑義がある、もしくは受傷状況の説明が曖昧であることがあり、「現場の状況のみが真実を語る」ことが多くあります。現場保全・証拠保全のことを考えると、虐待現場をその日のうちに確認する重要性があります。この点で現場を確認することに関しては、日頃の業務で鍛えられている警察の強みのように感じます。

児童虐待防止法第9条では、「児童虐待が行われているおそれがあると認めるときは、(中略) 児童の住所又は居所に立ち入り、必要な調査又は質問をさせることができる」と規定があり、児童相談所も現場への強制的な立ち入りは可能と考えられますが、親と共同して子どもに援助を行うことを旨とする児童相談所は、親・関係者の抵抗があるような場合は、丁寧な同意を得てから現場を確認する手順を踏むことを重視します。

病院としては、虐待確認後に福祉事務所若しくは児童相談所に通告することで役割は果たしたことにはなりますが、「緊急性」が求められる場合には警察への通報も認められています。実際にお話する警察の方々には、小児虐待を警察に通報することに関して、「どんな状況でも通報者が必要性を感じる場合にはいつでも相談下さい」と言って下さいます。やけどを含む重症な外傷・広範囲な外傷・性的虐待・明らかな保護者の説明/行動のチグハグさがある場合には、土日祝日であっても、警察への通報とAI-CAPへの報告を同時に実施しても良いように考えます。しかし、実際の通報時には医療機関の場合には、警察への通報者を秘匿することが難しく、保護者などから直接的な悪感情を持たれる危険性があります。

その観点から、私が通報の必要性を認める場合は、あくまで親を罰するものではなく、子どもの安全を守るため、虐待者も支援を受ける側であることを意識し、「現場を速やかに確認しておいてもらうことが後々の家族の安全につながる」ことを保護者に説明しておくようにしています。しかしながら、説明時には診療の一環としてではなく、時間・場所・人員の確保が必要であり、家族が暴れる、騒ぐような場合には複数の職員で対応するなど、悪感情を直接的に受けたくないような工夫が必要なため(小児科学会_子ども虐待診療の手引き17-2家族対応)、現状の土日祝日の小児科の体制では困難さを感じる所でもあります。現状は表題の通り「通告か通報か悩ましい」と考えながら、ケースに対応していくことを続けていきたいと考えます。

小児虐待防止委員会 委員長 齊木 玲央

<AI-CAP 事務局へのお問い合わせ> TEL : 0948-88-8220 (直通) FAX : 0948-88-2806

Pediatrics note (小児科 診療部長 大矢崇志)

「目は口ほどに物を言う。」

古くから伝わることわざですが、最近、ある男の子の診察をしていて思うところがあったのでお話しします。私たちは他者とコミュニケーションをする時、まずは言葉に頼ります。その方がわかりやすいし、伝わりやすいと考えるからです。今では、その延長にあるメールや SNS による文字情報でのやり取りが当たり前になり、目が口ほどに物を言っていたのは遠い昔のことになってしまいました。

そのせいというわけではありませんが、発達外来をしていると、言葉にまつわる相談を受けることが少なくありません。そんな中、A君が私の外来を受診しました。彼は小学校の中学年でしたが、学校に一人で通うことができず、お母さんについてもらって登校していました。家では話すことができますが、学校や診察室では一言も話すことができません。話す能力には問題がなく家庭では話せるのに、外の環境では話すことができない状態は「場面緘黙症」と診断され、不安症の一つとして分類されます。診察室の彼は不安げな表情で、質問をすると目に涙を浮かべていました。小児科医は子どもたちに声をかけるところから診察を始めますが、A君にとってはその声かけ自体が負担になるため、どう対応すべきか私も戸惑いました。日々の様子についてはお母さんから話を聞けば分かりますが、話してほしくないことまで話されることも多く、その度にA君は嫌そうな顔をしてお母さんに抵抗の意志を示していました。

このように不安に満ちた子や話をしてくれない子に、社会はどう接するでしょう。多くの方が言葉を待ちきれず、話すことを促したり（あるいは強要したり）、二択の質問をしたりして、自分が欲しい答えを求めます。その度に子どもたちは不安を強めたり、狭められた選択肢に不満を感じたりしていることでしょう。私はA君に、今できていることを続けるよう約束しました。お母さんからは様々な課題を聴きましたが、なるべく肯定的に捉え、成長を見つけて本人を称え続けました。そのことが功を奏したのかは分かりませんが、診察室で会う彼の目は涙ぐむことがなくなり、安心してくれたのか、次第にしっかりと私を見つめてくれるようになりました。「目は口ほどに物を言うなあ」と思ったものですが、その別れ際に彼がモジモジと手を出しハイタッチをしてくれて、今度は私が泣きましたという話です。課題はまだ残っていますが、私は彼の目を信じます。

最新の情報は飯塚病院ホームページよりご覧ください。

また、小児科・小児外科の詳しいご紹介や診療実績は「診療科のご紹介」をご覧ください。

外来担当表



小児科のご紹介



小児外科のご紹介

